



あきたはまるごと博物館 文化財探訪ツアー

仙北平野古代の里コース

古四王神社(大曲市)

↓
池田氏庭園(仙北町)

↓
払田柵跡(仙北町)

↓
坂本東嶽邸(美郷町)



仙北平野 古代の里 コース



コースの概要

秋田から国道13号線を南下し、大曲市に入ります。新設された大曲バイパスをさらに横手方面に向かい美郷町（旧六郷町）の手前約2kmを右に曲ります。市道を5分程走ると左手に杉並が見え、古四王神社に着きます。数百年この地に鎮座してきた社は重々しく荘厳で、おもわず頭が垂れます。

再びバイパスに戻り北上すると、まもなく右側に弘田柵跡の案内板が



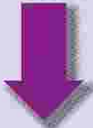
順路



古四王
神社



池田氏
庭園



払田柵跡



坂本
東嶽邸

見えてきます。ここを右折し、田園地帯を走り、仙北町役場横の十字路を西方向に走るとまもなく右手に立派な薬医門が見えてきます。それが池田家です。邸宅入口で門をくぐると並木道が長く奥へ続いています。庭園は静寂そのものですが、居並ぶ蔵や一際目につく白垂の洋館はかつての奥羽三大地主としての繁栄ぶりを充分にうかがうことができます。

池田家邸宅を囲む鬱蒼たる林をあとに道を戻り、払田柵跡に向かいます。美郷町(旧千畑町)方向に車で約15分、やがて左手に大きな門が見えてきます。払田柵跡の復元された南門です。門から一直線に丘に向かって道が伸びています。丘には当時の中心的建物の政庁があり、建物跡が平面表示されています。眼下に開ける眺望も見事で、晴れた日には遠く鳥海の山をのぞむこともできます。

柵跡前の県道を南に向かうとまもなく立派な松並木が見えてきます。旧千畑町の中心街で、並木通りに建てられた小学校前を右手に折れると坂本東嶽邸です。重厚な作りの邸宅と庭園は池田家とはまた違った趣があります。



坂本東嶽邸



古四王神社(大曲市)

室町時代末期に造られた社殿です。

富樫家文書によると元亀元年(1570年)に当時の大曲城主富樫氏が建立したと記され、県内でも古い建物の一つです。飛騨古川(現岐阜県古川町)の匠によって造られ、内部には菊や藤の浮彫が華やかに施されています。また、屋根下の組み物は1本の釘も使用せず木材の組み合わせにより重量感ある屋根を支えています。昭和25年国の重要文化財に指定されました。



池田氏庭園(仙北町)

奥羽三大地主の一つに数えられ、明治から昭和時代にかけて県の政治、経済、文化に大きく貢献した池田家の庭園です。

12,300坪の広大な敷地には中央部におしくも焼失した主屋と5棟の蔵が造られ、その西側に池泉を持つ主庭があります。流水式の池や石橋、灯籠からなり、特に雪見灯籠は笠の直径が3.9mと巨大で一際目をひきます。また、敷地内には大正11年に竣工された2階建ての白垂の洋館が現存し、庭園をいっそう引き出させています。平成16年国の名勝に指定されました。

払田柵跡(仙北町)

9世紀に創建された古代の役所跡と考えられています。昭和49年から県教育委員会により学術調査が行われ、政庁とよばれる中心的な建物跡や柵列、築地、門などが発見されました。現在は外柵の一部と南門などが復元され周辺の整備も進み往時の壮大な様を感じ取ることができます。

坂本東嶽邸(美郷町)

経済界、政界を通じ郷土の発展に尽くした坂本家の旧邸です。特に坂本理一郎(東嶽)は明治・大正時代に県議会議員・衆議院議員として郷里の復興に努め、小学校の建設、道路の建設、公園の造成などをおこない町づくりの基礎を築きました。また、理一郎は文人としても知られ文人墨客を招いて漢詩が良くおこなわれました。

家屋と庭園は平成4年に遺族により町に寄贈されたものです。



払田柵跡

仙北 古代の里 コース

弘
田
柵
跡

秋
田
県
埋
蔵
文
化
財
セ
ン
タ
ー

美
郷
町
郷
土
資
料
館

一
丈
木
遺
跡
・
一
丈
木
公
園

千
屋
断
層

仏
沢
公
園

美
郷
町
学
友
館

六
郷
湧
水
群
と
寺
院

飯
詰
竪
穴
群

後
三
年
の
役
古
戦
場

弘田柵跡(仙北町)

〔国史跡〕

弘田柵跡は9世紀初めに創建された古代の役所跡と考えられています。昭和49年から学術調査が続けられており、政庁と呼ばれる役所の中心的な建物跡や防御施設としての柵列・築地・土塁・門などが発見されました。これらの遺構は現在復元や平面表示され、周辺の整備も行われており、往時の壮大な姿を今にみることが出来ます。

秋田県埋蔵文化財センター(仙北町)

県内の遺跡の発掘調査を行っている機関で、中には整理室・研修室・収蔵庫等があります。調査された資料は展示室で一般公開されており、弘田柵跡から出土した柵木や県内の旧石器時代から縄文・弥生・古代を経て中世に至るまでの豊富な資料を間近にみることが出来ます。

美郷町郷土資料館(美郷町)

美郷町郷土資料館は明治時代の洋風建築である旧小学校舎を移築して利用しています。展示資料の主なものには県指定有形民俗文化財「材木ゾリ」をはじめ、本堂城跡関係資料など約200点あり、特に稲作展示室(農心館)では田植から収穫までの四季の農作業の様子や道具、わら細工などが展示され、ユニークな資料館として注目されています。

一丈木遺跡・一丈木公園(美郷町)

一丈木遺跡は縄文時代中期の遺跡で、真近に真昼岳を望む一丈木台地にあります。昭和47年から行われた発掘調査によって一帯が縄文時代の広大な集落であることがわかりました。現在は縄文時代の住居を復元して公開するなど、県内でも数少ない縄文期の史跡公園として町民の学習といこいの場となっています。

千屋断層(美郷町)

〔国天然記念物〕

千屋断層は、明治29年「稲田土に埋まり、山新たに現れたる如く」と称された陸羽地震によって出現しました。断層は、この地震により土地の隆起がおこり逆断層が発生したものです。断層はわが国最大規模のもので、山側と平野部の境に発生しており、山側の土地が隆起し手前にずり出している状態がよくわかります。

仏沢公園(美郷町)

仏沢公園は灌漑用水のため作られた溜池を中心に、その周辺にキャンプ場・遊歩道・いこいの森等からなります。公園内には平成元年に温泉が湧出しており、温泉施設も作られ、今後数年かけて周辺一帯の広域整備も計画されています。

美郷町学友館(美郷町)

美郷町学友館は、洋風建築であった旧六郷小学校を模したクラシックな外観を施しています。歴史民俗資料館と、図書館を併設しており、展示室にはかつてこの地を支配した六郷氏の資料のほか、原始から現代に至るこの地域の歴史資料が展示されています。

六郷湧水群と寺院(美郷町)

六郷を歩くと湧水と寺院が目につきます。湧水は60余あり、飲料水や洗濯に使われてきました。木立ちに囲まれたお合所清水や藤の花に囲まれた藤清水など、集いの場となっています。寺院は藩主佐竹氏が現存30余カ寺あります。朱塗りの二層の山門を持つ本覚寺は、県指定有形文化財「白雲上人画像」等多くの文化財を有しています。

飯詰竪穴群(美郷町)

JR後三年駅の東方約1km、大森山と西沼に挟まれた低地に竪穴群があります。現地は松林中に入ると方形の凹みが約50個程目につきます。この凹みが平安時代の住居の跡です。この時代の家は地面を凹めて床としており、廃棄された後、埋まり切らず現在まで残ったものと考えられています。県内では例が少なく貴重なものです。

後三年の役古戦場(美郷町)

後三年の役の合戦は、当時山北三郡を中心に勢力を張っていた清原一族の内紛から起こったもので、源義家がこれに介入することで戦は悲惨を極めました。この合戦の舞台となったところが西沼周辺で、義家が雁の乱れを見て沼に潜む伏兵を発見、勝利を収めたという故事は広く知られています。近くに家族で楽しめる温泉施設「湯とびあ」があります。

ちょっと寄り道

本堂城跡(美郷町)

〔県史跡〕

本堂城は戦国時代、この地を支配していた本堂氏によって作られた平城です。本堂氏は南北朝時代、陸奥国和賀郡よりこの地に到着し、太閤検地では知行8,983余石の小大名になりました。現在残っているのは内堀に囲まれた内城の区域です。堀は現在水田となっていますが、土塁の一部が残っており、昔日の面影をしのぶことができます。

スポットライト

六郷のカマクラ行事(美郷町)

〔重要無形民俗文化財〕

六郷のカマクラ行事は2月11日の鏡開きにあたる蔵開きに始まり、15日のカマクラ(竹打ち)で最高潮に達します。竹打ちは豊作祈願の火祭り行事として続いたもので、木貝の合図と共に町民が二手に分かれ青竹を打ち合います。打ち合う音、人々のさけびはさながら竹と人間の修羅場と化します。